

今年も元気で

勉強しようネ!



次回は第13章 機械装置と大工業

# Das Kapital

## 新年2022年1月学習会 第35回「資本論を読む会」

日時：1月24日（月）午後6時30分～  
Zoomで開催しています

「第13章 機械装置と大工業 第1節 機械装置の発達」（岩波文庫(二)325P）から。

クリスマス間近の12月23日、今年最後の「資本論を読む会」を開きました。参加者は地方からの2名を含む10名。「第5節 工場手工業の資本主義的性格」を読み合わせしてから討論しました。「単純な協業は、労働様式を変化させないが、

工場手工業(マニュファクチュア)は、個別労働力の根本をとらえる。」「労働者の局部的熟練を温存し、不具にし、奇形物とする」「労働者の精神的能力を奪い、無知を促進する」。そして「最後の生産物」が機械だった。この機械が手工業的活動を止揚する(チョット意識しすぎかな?)。

次回から「第13章 機械装置と大工業」に入ります。レポーターはTakさんです。この章は210ページ余りもある大部ですので、これを機会にレポーター数も5人に増員し(Sugiさん、Katoちゃん参加)、分担することにしました。この章は、終わらせるまでに来年一杯かかるかな?

討論後の自主懇親会は、いつものように維新の会の性格(野党化するか?)、参院選(1人区問題)と知事選(候補は・相乗り論など)と話題は多岐にわたりましたが、11時前にお開きになりました。

これからでも遅くありません(良い区切りですよ)。初参加の方歓迎します!

別途お送りするZoomアドレスからお入りください。楽しくやりましょう!

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

### レポーターから--Kai

#### 第十二章 分業と工場手工業 第5節 工場手工業の資本主義的性格

■工場手工業は労働力の根源を襲い、一つの変形した物にしてしまう。

\*「人が意志をなくし、人間が一つの機会となる場合」

\*「単純作業をなすに、彼の知性を行使しない。愚鈍無知となる。」

■労働者の資本への従属

\*労働者は、一面的・部分的な労働に特化された部分労働者になり、もはや独立できずに、資本のもとでしか生産を行なえない存在となる。

\*分業は労働者に資本の所有物だという刻印を押す。

■部分労働者たちが失う精神的能力は彼らを支配する力になる。

\*部分労働者たちの知識、洞察、意志は、作業場においてしか必要とされない。

\*工場手工業においては、知識、洞察、意志は、資本に集積される。

■工場手工業による労働者の支配の限界

\*手工業的熟練が工場手工業の基礎であり、資本は熟練労働者の抵抗と闘わなければならない。「労働者は熟練するほど、わがままで、取扱いにくくなり、資本主義的生産に重大な損害を与える。」

■工場手工業的分業の機械の生産は、生産活動に資本の支配を阻害する要因もなくなった。

\*工場手工業的分業の限界は、機械制大工業によって「克服」されていくことになる。